

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス古新町		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区古新町2丁目72番地		
自己評価作成日	H23年11月9日	評価結果市町村受理日	平成24年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年12月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に2日、温泉の日を設けており、入浴を楽しませている。</li> <li>・地域の方やご家族の方に行事にお招きしたり、地域の行事に参加してりしている。</li> <li>・個別の希望に添えるよう、出来るだけ細かい気配り実践している。</li> <li>・年間の大きな行事には、ご家族の方も参加していただいている。</li> <li>・昨年にはなかったが、訪問バン屋を利用したり、フラワー教室を月に1度行ってる。また、そば打ち見学を取り入れ打ち立てのそばを召し上げるなど、ボランティアの受け入れをしている。</li> <li>・御霊が多く利用者の方が楽しんだり、家族、地域に方々との交流を持つように心がけている。</li> <li>・スタッフも勉強会等を通じて、ケアの向上ができる様にしている。</li> <li>・職員皆で声をかけ合い、チームワークを大切にし利用者の方が心から楽しんで頂けるような目標を持ち過ぎている。</li> </ul>
--

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間で話し合い理念を一つに決めている。その理念をフロア内に掲示し常に意識できる様にしている。毎月のミーティングにおいて職員全員で理念を昌和している。また今後のケアの方向性や具体的なケア、職員間のチームケアの為に理念を基に目標を立てることで、理念の共有と実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の催し事、いきいきサロンや秋祭り等に参加している。町内行事に声を掛けて頂けることも多くなり、利用者が町内行事に参加できる体制作りにも努めている。また事業所の行事への参加もして頂いた。町内の行事へ参加後は、職員が率先し片づけの手伝いをし地域の一人となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対し支援の方法を話す機会は少ないが、町内の方には「グループホームは認知症の方が生活をする場所で普通の生活をしている」と理解して頂けており、町内の方から特別扱いではなく普通に接してもらっている。町内の行事への参加やお手伝い等の交流をもつことで、認知症への理解を推進している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録をスタッフ全員が目を通し共有できるようになっている。運営推進会議では、入退去の状況、行った行事やこれからの行事、職員の勉強会等を報告し解りやすく説明している。どんなことを行っているのか理解しやすいと思う。町内の方からの助言や質問のや情報交換の場にもなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いきいき支援センターの職員の方に運営推進会へ参加して頂く事で、事業所の実情やサービスの取り組みを知って頂けている。11月から生活保護受給者の利用が出来る様になり、今まで以上に協力関係を築けると思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯のために玄関は施錠しているが、原則常に開放されている。2階出入り口に関しては、利用者様の安全を配慮し止む無く施錠する場合もあるが、利用者がフロアから外出される気配には、常に察知できるよう職員は連携し見守りを怠らず声掛けを行い、利用者の外出に同行している。身体拘束に関しては、見守をしっかり行うことで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、職員間で話し合いどうケアを行うか検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会で虐待行為について学ぶ機会を設け防止に努めて意識を高めている。また職員間の連携を図る事で注意を払っている。虐待に値する様な事を発見した場合は直ぐに主任、管理者に報告し、本人に注意や事情を確認している。残存機能を維持する目的で計画された介護計画を遂行しようとするあまり、起きていた時間をとろうとする職員の努力(支援)が虐待にあたらないのか、見極めが難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	支援の必要な方が入居されていないこともあり、活用できるような支援は出来ていない。 勉強会を行っているが職員は対応していないため、あまり理解は出来ていない。今後も勉強会等を開催し理解を深められると良い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設見学や契約時など、しっかり時間を取り不安や疑問などを聞き対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時に直接ご家族の方に声を掛け、話しやすい雰囲気を作っている。 運営推進会議やご家族が集まるご家族会「古新会」などでご家族の意見や不安などを言える機会を作っている。 直接ご家族から伝えられた時には報告し共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、ユニット会議を行っている。その際管理者も出席しており意見を聞いてもらえ、アドバイスもしてくれる。 ユニット会議では、カンファレンスも行い職員が意見を言える機会を作っている。 申し送りや会議に管理者も出席しており、常に話しができる状態になっている。また、日頃から職員間でコミュニケーションをとるように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との交流やストレス解消の為に納涼会や忘年会などの場を作っている。 職員間の人間関係や就労におけるストレス等はなかなか表には出しにくいので自己のケアに努めている。 自己評価と他者評価の実施を行い把握に努めている。 新しい職員に対しOJT用いて指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員に対しOJT体制を取っている。 入社して一か月間はマンツーマンの実務研修があり丁寧な指導を受けた。 外部・内部研修への参加の機会が多い。外部研修に参加した職員が勉強会の場を使い参加できなかった職員に対し勉強会を開催する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹法人が多数あり、行事を通じて交流する機会がある。また法人内で研修の開催もある。 外部の研修に参加することで同業者との交流の機会となっている。 オープニング施設の職員研修や実習生の受け入れを積極的に行うことで自施設のサービスの質を見直す機会になる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、アセスメントを行うことで、ご本人の趣味や生活スタイル、好みなどの情報収集を行う。ご本人を知る事で職員も把握に努めている。入居後も不安や要望に傾聴するように努めている。また、入居前の説明でホームの生活を知って頂き、不安が聞かれればその都度対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、不安や要望を聞き対応できるよう努めている。入居後も要望などを傾聴するよう努めている。ご家族や利用者様の希望や要望や不安、求めている事を聞き、少しずつ解決できる様に話し合い実行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問マッサージや福祉用具の実費レンタル等、その方が必要としているサービスの導入や支援に努めている。入居に対し受け入れられない(拒否)利用者様に対し、慣れるまでの期間は無理強いせず、昼間の時間帯から使用して頂き、ホームに慣れて頂くなど工夫をしている。また、ご家族の方に宿泊して頂く等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図り、お互いを知り、一緒に生活していく環境を作っている。利用者様の話しに耳を傾け思いを汲み取るように努めている。又、入社して間もない頃何も分からず途方に暮れていたから「すぐ慣れるから頑張る」と励まされ、嬉しく涙が溢れた。日常生活の中で、ご本人に話を聞いたり会話の中で見つけ出し共に過ごせる関係を築いている。利用者様の出来ることは行って頂き、一緒に家事を行っている。時にはアドバイスを頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には電話連絡をし、面会時にご本人の出来事や気持ちをお伝えしたり、何かあればご家族の方に協力を依頼する事もある。入居間もない利用者様がホームに慣れるまで、ご家族の方が毎日通われたり、泊り込んだりしている。職員とご家族のスケジュールを確認し協力し合い、ご本人を支える関係作りが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも友人が来訪されることもある。ご本人を訪ねて来られた方々への対応は大切に、また来てくださるような支援に努めている。ご家族以外の方でも来訪しやすい雰囲気作りや職員の対応にも気を付けている。以前から通っている美容院や病院に通っている方もいる。また、馴染みのある町を歩いたり外出したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアは、利用者同士の交流の場である為、仲の良い利用者同士が会話をしたり、テレビを観たりしている。利用者同士が交流できるように席の配慮や散歩の支援をしている。また気の合わない利用者同士は職員が配慮し、トラブルとにならないよう介入し良好な関係が築ける様に努めている。ユニット合同のレクリエーションを行うことで、利用者同士に交流の幅を広げられる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた利用者は、どの様な生活をしているのか分からない状況である。訪問する機会を設けたいと思っている。 長期入院となり退去された利用者の方に対しお見舞いに行くなど、これまでの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段と様子が違う利用者様に対して、不安要因を会話の中で探り、解消できる様に支援している。散歩等で気分転換を図っている。 なるべくその方の意向に沿えるよう、普段の生活に近い生活が出来る様に努力している。また困難な場合はケースカンファレンスを行い職員で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人の情報を収集し職員が把握し共有できるようになっている。その方に合った生活環境を整えるよう努めている。また入居後はその都度、ご家族やご本人からの情報も取り組んで行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活のペースを崩すことがない様、ご本人と交流を図りその方を知る様にしている。 ホームで一日の流れはあるが、ご本人のペースで過ごせる様に支援している。またその様子を個別記録や個別の申し送りノートから知る事が出来、より細かい情報を職員間で把握できるようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、家族の希望や要望を聞き、介護計画に反映できるようにしている。月に1度の会議でカンファレンスを行い意見を出し合い検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録以外に個別の申し送りノートがあり、職員間で情報交換や共有が出来る様になっている。また、何かあれば職員間で話し合い検討している。記録は、ご本人の事がより多く分かるよう記録されている。個別記録以外にも必要に応じ記録用紙を増やし介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物等を行っている。必要に応じてご家族の協力をお願いしている。その場、その時の状況に合わせて出来る限り対応している。まだホームの生活に慣れない利用者様に対しご家族の協力(宿泊や面会等)を得られるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、訪問パン、訪問マッサージ、フラワー教室等を取り入れている。毎日の買い物など、入居前の生活に近い暮らしが出来る様に支援している。また町内の行事への参加やホームの行事に地域の方が参加されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに主治医(協力医療機関)以外にも、以前のかかりつけ医の往診や受診を受けており、医師との情報交換もできている。ご家族の同行が困難な場合は職員が同行し対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師が、週に1度健康管理の為にホームに来ており、相互に気づいたことを伝え対応出来ている。また相談する事も出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成し医療機関と連携を図っている。入院時にはお見舞いに行き、ご本人が早く退院できるように心のケアに努めている。また病院関係者から情報を聞いたり、ご家族から状態を聞く事で把握に努めている。退院後はご家族も含めて分からないことは病院に確認する等連携は図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ説明を行っている。終末期の利用者様の場合は協力医療機関の医師と相談できる体制になっている。今後の事をご家族と話しあったり、緊急時の対応を職員間で把握出来る様にしている。可能な限りホームでケアを行いたいと思いがあ。医師、職員、ご家族との連携、他利用者へのケア等を話し合い機会を今後も設けたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時に対応出来るよう、マニュアルを作成したり、外部研修や内部研修を行っている。折に触れ対応の仕方を確認し119番への連絡用の紙が提示されている。 研修や勉強会を行っているが「いざ」と言う時はまだまだ不安がある。今後も定期的に行って行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常持ち出し袋を用意したり、非常食を用意している。年に2回消防署員の立会のもと避難訓練(利用者と共に)を行い助言を頂いている。それ以外にも事業所だけの避難訓練を行い実際に利用者と一緒に避難ルートの確認を行っている。地域の防災訓練や勉強会に参加し協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合わせた対応に心がけている。介助を行う際の声掛けや介護中のプライバシーの保護に配慮している。 職員同士の申し送りや利用者の状況や問題点等を話し合う際は、実名を出さず話し合うことでプライバシーに配慮出来ているが、怠る事なく今後も心がけていきたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食事の盛り付けの好み、入浴や排泄のタイミング等、利用者の意思を尊重して介助している。また難聴の方には筆談で意思疎通を図っている。 コミュニケーションを通じて働きかけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯や職員の人数の都合で、散歩など制限してしまうことはあるが、要望がある場合は対応できるように職員間で努力している。基本的な一日の過ごし方があるが、要望があれば時間調整を行い職員間で体制を整え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は常に気にかけており、さりげなく整えている。 朝の更衣時や入浴の際には、ご自分の気に入った服と一緒に選ぶなどの支援をしている。女性の中には化粧をされる方や男性の髭剃りに介助を要する方に支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が食べられないメニュー時には別メニューで提供したり、朝食にパン食を希望される方にはパン食を提供している。また減塩食を希望される方にも減塩食を提供する等の工夫をしている。職員と一緒に買い物や食事作りや盛り付けをする事、一緒に食事をする事、毎食のメニューを掲示する事で食事を楽しみとして頂ける様に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量、水分量を把握できるように記録している。朝食にパン食を希望される方や減塩食を希望される方にはご本人の好みに合わせ提供している。また食事の形態や味付けも利用者に応じて支援している。季節や行事に合わせた食材やメニューにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時の義歯戦場や、月に1度の訪問歯科往診、毎食後口腔ケアを行い誤嚥防止や清潔に努めている。自己にて行えない方には介助をしているが、利用者によっては「面倒」と行わない方もいる。口腔ケアの重要性をもっと認識し怠らず支援できるように努力したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には記録をつけ定期的なトイレ誘導を行っている。トイレで排泄が出来る様に支援しているが、拒否された場合ご本人の思いや、周囲の利用者の方への配慮が難しい。入居時にリハビリパンツを使用していた方が、排泄パターンを把握し支援する事で布パンツの使用になり自立につながる支援が出来た。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、10時のお茶の時間にはなるべく牛乳を使用した飲み物を提供している。排泄記録で排便のチェックを行っている。自然排便を促す工夫として、乳製品の提供や水分補給(特に起床時)、腹部を温める等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員のペースではなく利用者のペースで入浴して頂ける様に支援している。また、無理強いする事なく入浴を促す声掛けをしている。原則1日置きの入浴となっているが希望される方には毎日入浴出来るように支援している。温泉の日があり入浴を楽しんで頂ける機会も設けている。異性の利用者に対しては羞恥心を侵害しないよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は好きな時間に休息できる環境を整えている。夜間はその方に合った室温にしたり、温かい飲み物を提供し良眠できる環境を作っている。また夜間の良眠が出来るよう日中の活動の支援にも努めている。好きな時間に就寝出来る様、消灯や就寝時間は特に決まりはなく、個々に合わせて就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬(内服・外用薬)が分かる様に、薬の情報がファイリングされており、全職員が副作用や用法、用量が把握出来る様にしている。内服が変更した場合は気を配る様にしている。誤薬防止の為に職員間で工夫や努力、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を手伝って頂いたり、一人一人の得意な事や出来る事、楽しみ事(お抹茶、手芸、工作、体操、散歩、家事)の支援をしている。また参加されない方への支援も今後の課題として考えてなければならない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が日課となっている方や買い物に行きたい方に、出来る限り行ける様に時間を作っている。散歩や買い物の希望は多く、要望に添える様に努力している。行事として遠足や外食の機会を設けており、一泊旅行や日帰り旅行(温泉)に出かける事もある。町内の方の協力によって、積極的に地域の行事に参加できている。色々な機会を設けているが、中には拒否や要望されない方もおり、外出の機会を設けるように、職員間で個別化した個別の外出の企画をしたいとの意見もあり、実現に向けて進んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にてお財布を所持している方もおり、買い物された場合は自己にて支払をされ、自己管理できている方もいる。時折所持金を確認しご家族にもお伝えしている。ご本人の安心につながる為にも手元に少額を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望によりご家族に電話をされているが、事前に職員がご家族に確認しお伝えしてから電話をするように支援している。中には携帯電話を持っている方もおられ自由に電話を出来る方もいる。手紙のやり取りは出来ておらず、今後機会を作り支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー(月間・日めくり)を掲示したり、季節を感じられる様、壁画作りを利用者と一緒に行っており、居室やリビングには利用者の作品を展示している。季節に応じて園芸もしている。夏場はスダレを使用し、光や温度の調整、秋からは加湿器の使用で体調管理を行い、過ごしやすい環境作りに努めている。トイレは常に清潔に保つ努力をしており不快な思いをしないように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前は使用の少なかったソファも配置を変えた事により、ソファで横になられたり雑談されている。リビングは皆の交流の場となっており、一緒に会話したりくつろがれている。席の工夫や配慮で気の合う方同志会話が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にタンスやベットの位置はご家族の方やご本人と相談し決めている。それぞれに思い思いの家具や配置で個性ある居室になっている。居室には自宅で作っていた物を持ってきた頂く事も多く、写真や思い出の品や仏壇を置かれている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は全て同じドアなので、個々のドアに工夫をこらしており、トイレは分かりやすく表示するなど、一人一人の残存機能を活かせるような環境作りを心がけている。共有部分は障害となる物を置かないよう環境整備に努めている。居室内の安全は職員が配慮している。		